

最高学年とは

福井県
福井養正館
小学6年 常田和太郎

僕は、小学一年生の時に道場に通い始めました。幼心に
「優しいお兄ちゃんやお姉ちゃんがいっぱいよかった。」
「剣道やってよかったなあ」

と思ったのを覚えています。

一年生ながらに京都に遠征に連れて行ってもらった時も、緊張で固まっていた僕にやさしくいろんなことを教えてくれました。

学年が進み、徐々に僕たちが下の学年の子のお世話をする機会も増えてきたある日の出来事です。その日は五・六年生が不在で、僕たち四年生以下での稽古でした。

先輩たちがいない不安なのかどうかはわかりませんが、声は出ていない！やる気も出ない！そんな稽古になってしまっていました。

案の定、先生の檄が飛びます！！

「五・六年生がいないから声が出ないのか？」

「今は四年生が一番上なんだから、やる気が出ないのも四年生の責任！」

しかし四年生の僕にはわかったような、わからないような、中途半端な感覚で話を聞いていました。

『キャプテン』という言葉の辞書を引くと「主将」という言葉が出てきます。主将とはチームを率いるもの！つまり道場のみんなを先頭に立って率いていかなければならない立場なのです。そんなキャプテンに僕が選ばれたのです。先生からキャプテンになることを告げられた時、意気揚々と

「ハイ」

と返事をしました。これから始まる試練もわからず・・・

キャプテンになったものの、新型コロナウイルスの関係でなかなか稽古ができず、やっとの思いで稽古が再開できたのですが、みんなの気持ちが入った稽古にはならず、僕自身もそんな稽古になっているにも関わらずみんなに声をかけることができませんでした。

すかさず先生の檄が飛びます。

「最高学年のお前たちがチームを引っ張る覚悟はあるか？」

「稽古がこのような状況になるのはキャプテンの責任！」

なんだこの感覚、そういえば四年生の頃同じことを言われたことがある。

「そうだ、僕は最高学年なんだ！」

「キャプテンなんだよ、僕は！」

道場のみんなを先頭に立って率いていかなければならない立場なのです。

よく考えてみたらそんなことも考えずにキャプテンになりました。いつも失敗しないかドキドキしながらキャプテンをしていました。当然、僕自身大きな声を出せていなかったと思います。

ある日、道場の先生がこんな話をしてくれました。

「キャプテンとは、いろんなことを感じる事。今日の稽古は先生は何を求めているのか？みんなはどんな気持ちで稽古に参加しているのか？今、やる気の風が吹いているのか？やる気のない風が吹いているのか？それを感じられれば周りが見えてきて、いい指示ができる。」

その時、僕なりに感じたのは、人を率いる覚悟がない。そういえば四年生のあの時も思っていた気持ち、

「チームをまとめるとは、人の前に立ち、どんな苦しいことがあっても僕がチームをまとめるんだという覚悟を持つこと。」

そんな気持ちを再確認しました。

その覚悟は普段の生活でも活かしています。僕の道場は毎年、市内の特別養護老人ホームで社会奉仕活動を行っています。入所者が住んでいる部屋や廊下を掃除したり、車いすを磨いたり。メインイベントは入所者の皆さんの前で剣道を披露するんです。最後はおじいちゃん、おばあちゃんと一緒に手遊びをして遊ぶのですが、ものすごく喜んでくれます。毎年、僕たちが

「元気をあげよう！」

とお伺いするのですが、逆におじいちゃんやおばあちゃんに元気をもらって帰ってきます。今年は新型コロナウイルスの関係で例年通りとはいきませんでした。施設周辺の草刈りをしたり、掃除をしたり。もちろん僕が先頭に立って、おじいちゃんやおばあちゃんが少しでも快適に暮らしてもらえるように心を込めて掃除しました。これも最高学年としての僕の覚悟です。

少しずつではありますが、学校生活でも、私生活でも、道場の活動でも最高学年としての行動ができるようになってきたと思います。稽古ではまだまだ先生にチームのまとめ方について指導されますが、そんな僕を同級生やチームのみんながフォローしてくれるようになってきました。

最高学年とは・・・

周りをしっかり見て、責任を持ち、全員が稽古をしやすいような環境を作り、覚悟を持つということだと思います。それは僕一人ではやり遂げれないと思います。最高学年のみんなはもちろん、五年生にも僕たちがやりたいことを理解してもらい、最高学年として最高のチームを作り、最高の思い出となるよう頑張ります。